

# 墨田区立緑幼稚園（1年目）

【園長】 河原 宏子  
【幼児数】 32名  
【学級数】 2学級



次の取組へ

## 【課題・改善】

- 今後、園児数の減少により、集団遊びが成り立ちにくかったり刺激が少なかったりすることが予想される。縦割り保育や近隣の保育園との交流を密に行いながら、同年齢の友達とかかわる機会を意図的に設けていく。
- 降園後、戸外遊びの多くを占めている園庭開放時に親子でも一緒に遊ぶことを楽しめるような場の提供や遊びの提示などを検討していく。
- 保護者が園に求めている挑戦意欲や根気強さが育まれるよう、引き続き環境の工夫に努めたり、目的をもちやすい活動や教材を提示したりする。

## 【実態・課題】

- 明るく素直な幼児が多く、人への愛着や信頼感の高い、人懐っこい様子が見られる。
- やり方が分かると何でもやってみようとする意欲が高い。
- 広い場所で遊ぶ経験や伸び伸びと体を動かして遊ぶ経験が少なく、すぐに疲れたり転んだりする様子が見られる。
- 食への興味が薄い幼児や偏食のある幼児が多い。また、基本的な生活習慣の確立に課題を抱えている幼児も見られる。

## 目標

- いろいろな遊びに興味をもち、夢中になって遊ぶ幼児（90%以上）
- 基本的な生活習慣の基礎を確立し、自信をもって生活を進める幼児（90%以上）

## 【成果】

- 多様な運動機会の工夫
  - 意図的にみんなで遊ぶ時間や環境を設定し、遊びの面白さを伝えていったことで、興味をもったことに自らかかわって遊ぶ幼児が増えた。
- 保護者を巻き込んだ活動
  - 外部講師による親子活動やミニ講義、運動遊びの会の参観などを通し、親子で体を動かす楽しさを味わうと共に、家庭でも実践するなど保護者の意識も高まってきている。
- アンケートの実施
  - 年に2回実施し、実態を把握することができた。
  - 保護者が子供に身に付けて欲しいことが、“マナーやルールの意識”が59%から17%へ、“健康な体”が34%から83%へ変わった。園での取り組みや大切にしていることを発信したことで、保護者の意識に変化が見られた。

## 【取組】

- 多様な運動機会の工夫
  - 日々の園生活の中で、思わず体を動かしたくなるような環境の工夫や保護者を巻き込んだ運動遊びを取り入れていく。
- 外部人材等と連携し指導方法を学ぶ
  - 運動遊びの講師を招へいし、年齢発達に即した運動遊びの機会を設定する。
- ICT機器の活用
  - 教師が効果的に取り入れながら、幼児が自身や他児が行っている運動の姿を振り返るきっかけとなるようにする。
- 健康的な生活習慣の定着を図る取組
  - 保護者に、「生活習慣に関するアンケート」を実施し、幼児の実態を正確に把握する。
  - 園での取組を家庭に周知し、園と家庭が連携しながら基本的な生活習慣の確立に向けて改善を図っていく。

## ○多様な運動機会の工夫

園庭の固定遊具が少ないことを踏まえ、幼児が様々な運動遊びを楽しめるよう環境を工夫しています。

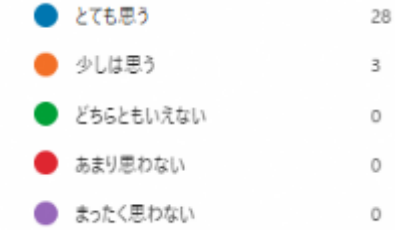


ピロティにタイヤを置き、自由に遊べるようにしました。バランスをとりながらタイヤの上を歩いたり、重いタイヤを運んだりするなど、全身を使って遊んでいます。

## ○ アンケートの実施

令和5年6月『生活習慣に関するアンケート』実施 回答率94%

幼児の体力向上のために、幼稚園の果たす役割は大きいと思いますか？

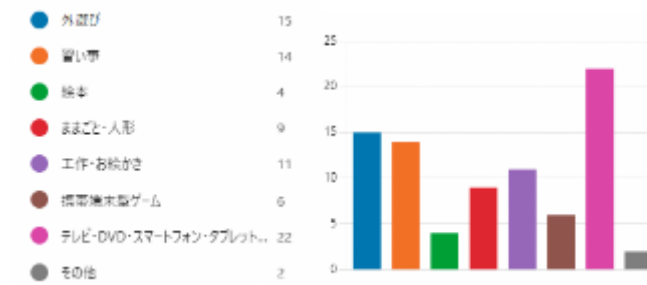


全ての保護者が、体を動かして遊ぶことや運動遊びが大切だと思っており、幼稚園にもその機会を求めていることが分かる。



坂道を設置すると、スクーターで上り下りを楽しむ姿が見られました。「スピードが出て面白い。」と速度を調整しながら遊んでいます。

降園後、夕食までの間、どのように過ごすことが多いですか？（複数回答可）



- テレビ、タブレット等の電子機器を使って過ごしている割合も多く占めている。
- 保護者中心の生活になっている家庭もあり、保護者自ら遊びの機会を保障することが難しい実態もある。

## ○ ICT 機器の活用

教師が、必要に応じて ICT 機器を用い、イメージの共有や振り返りの手助けとなるようにしています。



運動会に向けて、自分達のタイヤ引きの動画を見て振り返っています。「タイヤがまだ残っていたね」「次はもっと早く助けに行こう」など、様々な気付きがありました。

## ○ 保護者を巻き込んだ活動

運動遊びの講師を招へいし、親子運動遊びの会を設定し、保護者にも体を動かすことの楽しさを感じてもらえるようにしました。



親子で触れ合って遊ぶ楽しさや家庭でできる遊びを教えてもらったことで、保護者の意識も高まりました。